

DRAGLINES

チュウガタシロカネグモの開こしき作り

池田 博明

水平円網の中心部は丸く穴の開いた「開こしき」であるが、造網の途中で、こしきは閉じている。円網作りが終わると中央に戻ったクモがこしきをかみ破って穴を開けるのである。以前に神奈川県大和市で夕方、コシロカネグモの開こしき作りを観察したことがあった。2013年4月14日午前11時、神奈川県足柄上郡大井町でチュウガタシロカネグモの開こしき行動を観察・撮影したので報告する。

発見時、クモは水平円網の横糸張りをもう少しで終えるところだった。縦糸19本（一部融合がある）、足場糸はなく、横糸が15本。中央のこしきのまんなかには糸の塊がある。こしきの糸は19本の縦糸の基点を四重に回して押さえているようだ。



1 もうすぐ横糸張りが終わる（横糸18本）。



3 中央にぽっかりと穴が開いた。クモを追い出して穴を確認する。



2 クモは中央に来て、ちょうどまんなかの糸のかたまりのある部分をかみ破った。



4 まんなか部分だけがみ破られた。このクモはメス成体（体長7.2mm）。この時期は繁殖期なので網作りの横糸張りの段階で、オス成体（体長5.1mm）が網のへりに侵入していた。

写真2と写真3の説明が逆です